

親愛なる友だち、仲間みなさんへ

コロナウイルスの感染拡大により、世界中が大きな試練に立たされています。日常の行き来もままならなくなっています。みなさまはどうお過ごしでしょうか。

2011年3月11日フクシマ大惨事から、間もなく10年が経過しようとしています。

この大惨事をきっかけに、私はみなさんと知り合い、たくさんのことを教えられました。とくにスイス・バーゼル研究所のDr. Markus Zehringer、Dr. med. Martin Walter らの支援を受け、乳歯中ストロンチウム90の測定を日本で始めることができたことは、何物にも代えがたい大きな歩みの第一歩です。感謝しています。

しかしいま、私個人はストロンチウム90の影響と思われる病を抱え、闘病中です。その病は、骨髄異形成症候群(MDS myelodysplastic syndrome)です。

この病は、広島・長崎の原爆数年後から被ばく者に見られるようになり増加していましたが、日本で人類が経験した最大最悪の3.11原発事故以降、いま関東圏を中心に日本各地でMDSの患者さんの増加が指摘されています。

進行すれば白血病への移行もありうる難病「MDS」。米国で開発された「ビダーザ」は、MDSの治療に大きな効果を発揮する、画期的な新薬として注目され、日本新薬では2011年3月に「ビダーザ」を発売しました。

私は2018年1月からビダーザを注射、治療を開始しました。MDSは、その後約2.5年比較的良好な効果が期待できましたが、現在はもはや効果なく、赤血球と血小板を週一回輸血し、血液の状態を整えているところです。最近は免疫力の衰えから高熱が出るなど油断を許さない状態です。

私はMDSや白血病でゆっくり人を殺す人たちを、忘れてはならないし、免罪してはいけなさと、自らに言い聞かせています。

そこでお願いです。

私たち「はは測定所」では、バーゼル研究所で研修を受けた仲間を中心に、日々乳歯中ストロンチウム90の測定を進めております。

今後ぜひこの結果を、日本だけのものとせず、スイスをはじめ多くの国と共有し、研究者たちの叡智と力で解析し、世界の未来世代のために生かしていただきたいと望みます。

2020年8月15日

核のない未来を願って
松井英介

伊東英朗監督にご支援を！

この映画が日本の未来を考える上でひとつの気づきになることを、
そしてアメリカの人たちが事実を知るきっかけになることを願っています。



Sep 8, 2021 ジョセフ・マンガノ Joseph Mangano

1950年代後半、米ソ冷戦の緊張が高まる中で最も憂慮すべきことは、可能な限り多くの原子爆弾の実験と製造を競う熾烈な競争であった。・・・

自然界には存在しなかった100種類以上の発ガン性同位元素を含む放射性降下物を発生させた。広島原爆の1,000倍以上の威力を持つ爆弾もあった。多くの人が懸念したのは、放射性降下物が実際に人々の間に蓄積されていくこと、特に毒性の影響を最も受けやすい子どもたちに蓄積されていくことであった。・・・ 政府関係者は、亡くなったアメリカ人の骨や組織を密かに採取し、核実験の時期に対応してSr-90が大幅に増加していることを発見した。この調査結果は公表されず、実験は続けられた。2011年RPHPは乳がんを用いた体内健康被害の研究に関する初の論文を発表した。この研究では、50歳までにがんて死亡したセントルイスの住民の歯のサンプルは、50歳の時点で健康だった人の2倍以上のSr-90濃度を示していた。・・・ RPHPの次のステップは、2011年の調査をさらに発展させることである。関連してRPHPは2021年3月に記者会見を開き、ミシガン州モンロー郡のがん死亡率が米国の他の地域と比べて格差が拡大していること、特に子どものがん死亡率が高いことを報告した。モンロー郡は、デトロイトの南に位置し、1980年代半ばに運転を開始した原発フェルミ2号炉がある地域である。

(研究教育団体「放射線と公衆衛生プロジェクト (Radiation and Public Health Project: RPHP)」より抜粋)

アメリカ大陸の放射能汚染の実態に迫る渾身のドキュメンタリー

伊東英朗監督はいまなお潜む、“サイレント・フォールアウト、見えない放射性降下物”の実態をあぶりだし、汚染を追った。

本作は、子どもを被曝から守るために女性たちが始めた「乳がん検査」を中心に取材。4000ページを超える文書と、2022年夏に米国内の被爆者、研究者30人に行ったインタビューをもとに、今も続く放射能汚染の現実を伝える。

皆様のご支援を
どうぞよろしく
お願いいたします



伊東英朗 (いとう・ひであき)

1960年愛媛県生まれ。16年間公立幼稚園で先生を経験後、テレビの世界に入る。東京で番組制作を経験した後、2002年から地元ローカル放送局南海放送で情報番組などの制作の傍ら、地域に根ざしたテーマでドキュメント制作を始める。

2004年ビキニ事件に出会い、以来、8年に渡り取材を続け、2012年『放射線を浴びたX年後』を完成。「地方の時代映像祭グランプリ」「民間放送連盟賞 優秀賞」「早稲田ジャーナリズム大賞」など多数受賞。同名書籍も刊行した。



12月3日(日) 岐阜 CINEX 映画「サイレント・フォールアウト」(2023年 96分)を観る会